

5 乳児健診における母乳相談

申請者氏名（代表者） 金城壽子、小西清美、鶴巻陽子		所属部門	人間健康学部看護学科 母性看護学領域	
企画名 乳児健診における産後3～9か月の母親への母乳相談				
企画の目的・概要（企画の目的と概要を正確かつ簡潔に説明して下さい。）				
<p>企画の目的： 乳児健診時における母乳相談は、ライフステージの中で母性を育む妊娠・出産・産褥期以外でも健全な母児の育成を見守り、支援していくことは重要である。特に北部地域の産科医療不足の現状、厚生省健やか親子、名護市の母子保健問題の課題を見据えて、特に母乳推進をしていくうえで助産師が産後3か月、9か月の母親に対し、母乳栄養におけるトラブル、卒乳などの母乳相談を行うこと、ファミリープランの情報提供、及び市役所関係者との交流の機会をつくる。</p> <p>概要</p> <p>日時：平成25年5月～平成26年3月（毎月1回、乳児健診のある日時）</p> <p>場所：名護市労働福祉会館</p> <p>担当スケジュール：年11回を母性領域教員3名で分担、教員の相談代行2名を割当</p>				
企画実施組織（代表者、分担者及び協力者）				
人間健康学部 看護学科 母性領域 （金城壽子、小西清美、鶴巻陽子、長嶺絵里子、鬼澤宏美、仲村美津枝）				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
金城壽子	看護学科 准教授	母性看護・助産	相談、連絡調整	9月退職
小西清美	上記 教授	同上	相談	
鶴巻陽子	同上 助教	同上	相談、連絡調整	
長嶺絵里子	同上 看護学院生	同上	相談代行	
鬼澤宏美	同上 非常勤講師	同上	相談代行	
仲村美津枝	元同上 教授	同上	相談	
企画実施報告（参加人数等を明記）				
<p>平成25年5月～平成26年3月までの相談日数は11回中、9回実施。相談件数は5月11日3件（2.9%）、6月21日4件（4.7%）、7月6日3件（3.2%）、8月10日4件（4.2%）、11月2日11件（10.3%）、11月30日7件（9.7%）、12月14日9件（11.4%）、1月11日4件（5.6%）である。1月現在、母乳相談をうけた母親は45名（2月1日実施含まず）。</p> <p>健診時の母乳相談について3ヵ月～5ヵ月の乳児を持つ母親23名は、母乳分泌不足感や乳房トラブルの対症法についての内容が多く、9ヵ月～10ヵ月22名では、卒乳の時期や方法についての質問が多く聞かれた。児の経口状況や母親の分泌状況によっては、継続的な支援には医療施設の紹介をしたほうがよい事例もあり、母乳相談を実施している助産師の紹介なども行っていた。</p> <p>その他に、児のアレルギーや母親自身の身体に関すること、児の体重増加、皮膚トラブル、経産婦では前回のトラブルを踏まえた今後の母乳育児への対応・仕方などの質問も聞かれ、前回の状況を鑑みながら個別に対応するようしていた。</p> <p>家族計画について大学から配布した資料は、6月に9部、11月30日に1部配布されていた。</p>				

企画の実施評価(ケアの質の向上、または大学および地域の貢献)

平成 26 年 1 月現在までに 8 回行われた乳児健診数は 711 人(双胎も含むので母親の人数と同一ではない)で、母親 45 人(6.3%)から相談がみられた。健診中、担当保健師からの紹介が増えた。予定スケジュールの半日で 85~107 人/回の乳児健診があり、市の保健師は時間の制約があるなかで大学教員による母乳相談対応は母親の相談に傾聴し、セルフケアにつなげる展開ができた。継続支援が必要とする母親に対し、医療機関、助産院などの情報提供をすることで母親の選択肢をひろげ決定支援が拡がると同時に北部地域の産科医療施設への理解が深めた。相談内容の情報提供、相談者の総会を通して、市役所関係者との交流、協働関係ができた。

今後の取組み(本企画について、今後どのように発展するかを具体的に記入してください。)

- 2 年目の取組みを継続
- 市役所保健師と取組について情報交換と評価会
- 自己負担、特に資料及び相談代行者の予算請求

